

2019/05/19

「変わりたいと思う時」

誰もが「変わりたい」「変わらなきゃ」と思った経験があることでしょう。仕事内容が変わってこれまでのようには行かなくなった時、子どもが成長して親の手助けが必要ではなくなった時など、人生のステージが変わって行く時、今までの考え方では自分の価値を確認することができなくなり、私たちは「考え方を換えなければ」と思うものです。

あるいは、活躍している同級生を見て、「同じ年なのに、自分は何をやっているんだ」などと、「このままじゃだめだ、変わらなきゃ」と思うこともあるでしょう。

つまり、私たちが「変わりたい」「変わらなきゃ」と思うのは、自分の理想と今の自分自身が違うことを発見したときなのです。

■理想とする自分と異なるとは

私たちの理想とは、「自分は良きもの」と確認することです。なぜなら、私たちは良きものだからです。

私たちが良きものであるという前提は、人が神によって造られたからです。神が造られものは皆良いものですが、その中でも人間は神のいのちによって造られました。神のいのちによって造られた私たちの魂は、自分が良いものであると知っています。ところが、罪によってそれが見えなくなってしまったために、この地上では、それを確認する手段がありません。

自分の価値がわからなくなった私たちは、人と比較して「私はすごい」ということを確認しようとはしますが、必ず上には上がいて、それが永遠に続くことはありません。また、ある面では秀でていても他の面では劣っているという現実を見て、結局、皆「このままではダメだ」という挫折を味わうことになります。

しかし、結論から言うと、私たちは変われないし、変わる必要もありません。なぜなら、初めから非常に良いものだからです。罪によって、神とのつながりを失い、良きものであることが見えなくなりましたが、本質が変わったわけではないのです。

自分が良きものであることを確認する方法は、神とつながることです。神にとって、罪は汚れであり、病気です。神とつながると、表面の汚れが取り除かれた、本来の自分を見ることができるようになります。

■現実を見る

では、現実に今自分を苦しめている事柄に対して、私たちはどのように対応すればよいのでしょうか。私たちが「変わりたい」と願うのは、理想と現実が異なる時です。「理想」とは神に造られた姿のことです。そして、「現実」とは、神と離れた姿、つまり「罪」のことです。「変わりたい」と願っているその「罪」を、私たちはどのように取り除けば良いのでしょうか。

「肉体の鍛練もいくらかは有益ですが、今のいのちと未来のいのちが約束されている敬虔は、すべてに有益です。」(I テモテ 4:8)

ここで「肉体の鍛錬」と言われていますが、「これは人から良く思われるための努力」「人にいやな思いをさせないための努力」と受け取っても良いでしょう。このような努力は否定されるものではありません。しかし、すべてに有益なのは、「敬虔」すなわち、神を信頼し、愛する思いです。

神を信頼すると、神が造られたものは、皆良いものであると信頼することができるようになります。また、神が自分を愛し、自分に良くしてくださることを信じるようになります。

このことを知らないと、自分は良きものであることが信じられないので、自分を否定してばかりで、良くなるためには、自分にはないものを外から取り入れようとしてしまうことになります。しかし、外から取り入れる必要はありません。あなたはすでに良いものを持っています。というよりも、神のいのちで造られているあなた自身が善なのです。ですから外から良いものを取り入れようとするのではなく、良きものを良きものとして生かすために、良いものを覆っている汚れを取り除くことが必要なのです。

このように、神がどのように人を造ったかという前提があるかないかで、物事への取り組み方がまったく変わってしまい、この答えに到達できるかどうかが変わってしまうので、この前提はとても重要なのです。

「自分はダメだ。」とってしまう時、「いや、神の目にはダメじゃない。」と思い出しましょう。「自分がダメなのではなく、このままではダメだ」と思うなら、「いや、神はすべてを益としてくださる。」と思い出しましょう。

自分はダメではないのに悩んでいるということは、解決しなければならないのは、自分を変えるのではなく、どのように自分をとらえ、生かしていくのかということです。

私たちが変わりたいと思うのは、人からの評価が変わったときや、何かと比較したときです。これを、神が私たちが良きものとして造ったという前提に立つならば、次のように解決していくことができます。

- ・人からの評価ではなく神の評価で生きる
- ・人との比較ではなくキリストを基準として生きる

神を信頼し、神を基準とすること、すなわち、神に価値を置くということは、今のいのちと未来のいのちを約束するものであり、すべてに有益なものです。

■キリストを基準に生きる

「兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えるはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標をみざして一心に走っているのです。ですから、成人である者はみな、このような考え方をしましょう。もし、あなたがたがどこかでこれと違った考え方をしているなら、神はそのこともあなたがたに明らかにしてください。」(ピリピ 3:13-15)

私たちが目標とするのは、神の評価です。ただし、神は私たちの行いを評価することはあ

りません。なぜなら、あなたの評価は、最初から最高だからです。神に目を留めるなら、神はまた私たちがどのようにずれているかも明らかにして、取り除いてくださいます。

「しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。それは、私には、キリストを得、また、キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。」(ピリピ 3:7-9)

パウロは、自分のことを「律法による義についてならば非難されることのない者」(ピリピ 3:6) と言うほど、御言葉を実行し、良い行いを達成するために一生懸命でした。ところが、キリストを基準に生きるようになった時、行いで義と認められようとするのは彼にとってまったく価値のないもの、魅力のないものになってしまいました。いくらこの世が認めると迫ってきても、キリストの評価以外、まったく魅力を感じなくなったのです。

■偽善者にならないために罪を犯そう？

さて、神に愛され、良きものとして造られていることを知っても、現実には毎日罪を犯してしまう自分がいます。現実には目に見えるので、私たちは、毎日「お前は罪人だ」ということを確認することになります。そのため、多くの人が、クリスチャンになってもなお、自分が罪を犯していることに苦しんでいます。

ある時、「教会ではいい顔をしているけど、本当の自分は汚い。自分は偽善者だ。」と悩んでいる人がいました。長い間、神様から離れて生きてきた私たちは、どちらが本当の自分なのかわからなくなり、「自分は罪人なのだから、いい子でいるのはおかしい。心の中は罪人なのに、いい子ぶっているに過ぎない。」という惑わしに騙されてしまうことがあります。

世の中の道徳は、人が考える正しさや不道徳を教えるだけで、見た目であなただを判断しますから、罪人のあなたしか見ていません。あなたの心が神に向いているかどうかなど、世には関係ありません。日々、世の考え方にさらされている私たちが、自分が良いものであり、行いで人が裁かれることはないということを信じ続けるには、罪が目に見えるのと同じくらい、何度も前提を確認する必要があります。

■御言葉を通して神と会話しよう

私たちはあまりにも長いこと、肉の自分が本心だと信じてきました。そのため、何が本当の自分かわからないでいます。そのため、神と出会い、本当の自分を知って生きると、違和感を覚えることがあるのです。

しかし、私たちの本心はまぎれもなく神と共に生きること、神と語り合いながら生きることです。神のいのちで造られた魂には、神とひとつに生きることが必要です。そこで神と会

話をする共通の原語が御言葉なのです。御言葉を実行するとは、神と共通の言語を使って会話をすることです。一人ひとり育ってきた環境によって、同じ出来事でも、どのように感じるかは異なります。神の言葉を実行することによって、体験すること、感じることを、それらを使って神と対話することを通して、自分自身で神のことばを理解し、神と一つになる感覚をつかむことができるのです。

一般的に若者は短くて過激な表現を好みます。その中でもよく使われる「死ね、消えろ、終わった」などという言葉は、美しくはありませんが、それは、文字通りの意味ではなく、「現状を変えたい」という魂の叫びのように私には聞こえます。自分の理想とは異なる現状をつらく感じ、うまくいかない現状を「新しくやり直したい」のです。実は、すべての人がそのような願望を持っています。そして、その願いは御言葉を実行することを通して、体験することができるのです。

御言葉を実行すると、「できない」という事実がぶつかります。しかし、御言葉は実践の成功を目指すものではなく、神と対話するためのものなので、できなくても全然かまわないわけです。ただし、実行できないと、つらいという気持ちが残ります。ここで重要なのが、自分は良きものだという事実を受け取っているかどうかです。

できないのはダメだという前提ならば、できなければもう終わり、やらなくてもいいということになります。しかし、できなくてもダメじゃないというなら、できるかできないかには価値がないので、ただ自分に「つらい」という気持ちが残るだけです。そして、神はそのつらさをいやすことを通して交わりたいと願っていらっしゃるのです。

神がつらさを癒すというのは、できないことができるようになることではありません。神と共に生きることで癒されるのです。つまり、神の助けを受けることが、私たちにとっての癒しです。

「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」(詩 119:71)

苦しみに会ったことは幸いと言える人生にするために必要なのは、神さまのお考え（おきて）を知ることです。そのために必要なのは、主と交わることです。

「このままではダメだ、変わりたい」と思った時、自分はずでに良きものなのでから変わるのではなく、神に造られた元の姿を取り戻すのだと、神と交わる方向に軌道修正をしましょう。今までの自分に足りなかったものを外から取り入れて変わろうとするのではなく、自分の向きを、神を見上げる方向に戻すことです。

悔い改めるとい言葉は、正しい方向に戻す、主に立ち返ることです。状況を変えるのではなく自分の向きを変える（戻す）ことが、リスタートになるのです。

「しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」(ローマ 8:37)

圧倒的な勝利者とは、絶対に負けない勝利者、すなわち、最後は絶対勝つということです。うまくいかないことがあっても、神と共に生きるなら、最後は必ず勝利することができます。

これに対して、「私は将来の幸せではなく、今幸せになりたい」と言われることもあります。しかし、必ずうまくいくことがわかっているならば今幸せを感じることができます。ちょうど「明日、ディズニーランドに行く」とわかっているならば、そのことを考えるだけで今日から楽しい気持ちになれるように、今日から幸せを確信するために必要なのは、必ずうまくいくと信じる信仰です。信仰は、神からもらうものです。神に立ち返り、神に信仰を求めることで、私たちはつらさから解放されるのです。

「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。」

(ヤコブ 1:5)